

【I】以下の問1から問5における各種の手続きを正しい順序に並べたものとして適当なものを、解答群から1つずつ選んで答えなさい。

問1. 現金出納帳の月末の締め切りに関する手続きを正しい順序に並べたものとして適当なものを、次の(A)～(D)より1つ選び、解答欄1にマークしなさい。

- ア 収入欄と支出欄の合計金額を記入し、二重線を引いて締め切る。
- イ 支出欄に月末の残高を記入する。
- ウ 次月の記入に備えて、前月繰越の記入を行う。
- エ 日付欄に月末の日付を記入し、摘要欄に「次月繰越」と記入する。

解答群

- | | |
|-------------------|-------------------|
| (A) ウ → イ → ア → エ | (B) エ → イ → ア → ウ |
| (C) エ → ウ → イ → ア | (D) ウ → ア → エ → イ |

問2. 伝票を用いた取引の記帳に関する手続きを正しい順序に並べたものとして適当なものを、次の(A)～(D)より1つ選び、解答欄2にマークしなさい。

- ア 勘定科目ごとに取引を集計し、仕訳日計表を作成する。
- イ 伝票に取引を記入する。
- ウ 伝票から売掛金元帳や買掛金元帳へ転記する。
- エ 仕訳日計表から総勘定元帳へ転記する。

解答群

- | | |
|-------------------|-------------------|
| (A) イ → ウ → エ → ア | (B) ア → イ → エ → ウ |
| (C) ア → エ → ウ → イ | (D) イ → ア → エ → ウ |

問3. 簿記一巡の手続きを正しい順序に並べたものとして適当なものを、次の(A)～(D)より1つ選び、解答欄3にマークしなさい。

- ア 決算整理を行い、精算表を作成し、財務諸表を作成する。
- イ 試算表を作成する。
- ウ 取引を仕訳帳に記入し、総勘定元帳へ転記する。
- エ 総勘定元帳の各勘定を締め切る。

解答群

- | | |
|-------------------|-------------------|
| (A) ア → イ → ウ → エ | (B) イ → ア → エ → ウ |
| (C) ウ → イ → ア → エ | (D) ウ → エ → ア → イ |

問 4. 「商品を仕入れ、次いで、商品を売り上げた」という取引の商品有高帳の記帳に関する手続きを正しい順序に並べたものとして適当なものを、次の (A) ～ (D) より 1 つ選び、解答欄 4 にマークしなさい。

- ア 日付と摘要欄を記入し、払出欄に払い出した商品の数量、単価、金額を記入する。
- イ 残高欄に商品の受入後の数量、単価、金額を記入する。
- ウ 残高欄に商品の払出後の数量、単価、金額を記入する。
- エ 日付と摘要欄を記入し、受入欄に受け入れた商品の数量、単価、金額を記入する。

解答群

- | | |
|-------------------|-------------------|
| (A) エ → イ → ア → ウ | (B) ア → ウ → エ → イ |
| (C) ア → イ → エ → ウ | (D) エ → ウ → ア → イ |

問 5. 総勘定元帳の「減価償却累計額」勘定の期首から期末にかけての記帳に関する手続きを正しい順序に並べたものとして適当なものを、次の (A) ～ (D) より 1 つ選び、解答欄 5 にマークしなさい。

- ア 固定資産台帳の期首の合計金額を「前期繰越」と記入する。
- イ 借方と貸方の合計金額を記入し、二重線を引いて締め切る。
- ウ 勘定の貸借差額を「次期繰越」と記入する。
- エ 固定資産台帳の当期減価償却費の合計金額を「減価償却費」と記入する。

解答群

- | | |
|-------------------|-------------------|
| (A) エ → ア → イ → ウ | (B) ア → エ → ウ → イ |
| (C) ウ → ア → エ → イ | (D) イ → ア → エ → ウ |

簿記

X2 年		手形 種類	手形 番号	摘 要	支 払 人	振出人または裏書人	振出日		満期日		支払場所	手形金額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘要
4	10	約手	31	売 上	横浜商店	水戸商店	4	1	4	30	川崎銀行	250,000	4	30	入金
	15	約手	11	売掛金	高崎商事	高崎商事	4	15	5	15	前橋銀行	130,000	5	6	割引
	21	為手	22	売 上	大宮商会	野田商店	4	19	6	5	浦和銀行	190,000			

(A)	(借)	受取手形	250,000	(貸)	売掛金	250,000
(B)	(借)	買掛金	250,000	(貸)	支払手形	250,000
(C)	(借)	仕入	250,000	(貸)	買掛金	250,000
(D)	(借)	受取手形	250,000	(貸)	売上	250,000

(A)	(借)	買	掛	金	250,000	(貸)	売	掛	金	250,000
(B)	(借)	買	掛	金	250,000	(貸)	支	払	手	形
(C)	(借)	仕		入	334,000	(貸)	受	取	手	形
							買	掛	金	84,000
(D)	(借)	仕		入	334,000	(貸)	支	払	手	形
							買	掛	金	84,000

(A)	(借)	当座預金	127,000	(貸)	受取手形	127,000
(B)	(借)	当座預金	127,000	(貸)	支払手形	127,000
(C)	(借)	当座預金	127,000	(貸)	受取手形	130,000
		支払割引料	3,000			
(D)	(借)	当座預金	127,000	(貸)	受取手形	130,000
		手形売却損	3,000			

【Ⅲ】純資産の期首残高と当期の増減額は次のとおりであった。以下の問 9 から問 17 に答えなさい。

(単位：円)

	期首残高	当期増減額			
		剰余金の 配当・処分	新株発行	当期純利益	合計
資本金	16,500,000		ア		ア
資本準備金	2,300,000		2,000,000		2,000,000
利益準備金	450,000	30,000			30,000
別途積立金	350,000	110,000			110,000
繰越利益剰余金	880,000	△440,000		ウ	エ
合計	20,480,000	△300,000	イ	ウ	オ

問 9. 期首資産の総額は 27,740,000 円であった。期首負債の総額として、次の (A) ～ (D)

(単位：円) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 9 にマークしなさい。

(A) 6,530,000 (B) 7,260,000 (C) 8,000,000 (D) 8,610,000

問 10. 当期に新たに株式を 1 株につき 5,000 円で発行し、1 株の払込金のうち 2,500 円は資本金に計上しないこととした。新株発行欄イの金額として、次の (A) ～ (D) (単位：円) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 10 にマークしなさい。

(A) 2,500,000 (B) 4,000,000 (C) 6,000,000 (D) 8,000,000

問 11. 株主総会で繰越利益剰余金を上の表のように配当および処分することを決議した。配当金の金額として、次の (A) ～ (D) (単位：円) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 11 にマークしなさい。

(A) 30,000 (B) 110,000 (C) 300,000 (D) 440,000

問 12. 期末純資産の総額は 25,160,000 円であった。期末繰越試算表の純資産を除く貸方残高の内訳は、次のとおりであった。期末資産の総額として次の (A) ～ (D) (単位：円) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 12 にマークしなさい。

貸倒引当金	80,000 円	備品減価償却累計額	1,320,000 円
建物減価償却累計額	1,960,000	買掛金	3,910,000
借入金	3,300,000	未払法人税等	280,000
未払利息	60,000		

(A) 17,950,000 (B) 26,050,000 (C) 29,420,000 (D) 32,710,000

問 13. 期末純資産の総額は問. 12 の金額であった。当期純利益欄ウの金額として、次の (A) ～ (D) (単位：円) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 13 にマークしなさい。

- (A) 580,000 (B) 680,000 (C) 980,000 (D) 4,680,000

問 14. 問. 13 において繰越利益剰余金の期末残高の金額として、次の (A) ～ (D) (単位：円) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 14 にマークしなさい。

- (A) 440,000 (B) 540,000 (C) 680,000 (D) 1,420,000

問 15. 中間申告を行い、小切手を振り出して法人税、住民税及び事業税 240,000 円を納付した。その仕訳の力として、次の (A) ～ (D) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 15 にマークしなさい。

- (借) (カ) 240,000 (貸) 当座預金 240,000
(A) 仮払法人税等 (B) 繰越利益剰余金 (C) 法人税等 (D) 未払法人税等

問 16. 問. 15 の中間申告による納付を経て決算にあたり当期の法人税、住民税及び事業税を計上した。その仕訳について、次の (A) ～ (D) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 16 にマークしなさい。

- | | | | | | | |
|-----|-----|--------|---------|-----|--------|---------|
| (A) | (借) | 法人税等 | 40,000 | (貸) | 未払法人税等 | 280,000 |
| | | 仮払法人税等 | 240,000 | | | |
| (B) | (借) | 法人税等 | 280,000 | (貸) | 未払法人税等 | 280,000 |
| (C) | (借) | 法人税等 | 520,000 | (貸) | 仮払法人税等 | 240,000 |
| | | | | | 未払法人税等 | 280,000 |
| (D) | (借) | 租税公課 | 240,000 | (貸) | 仮払法人税等 | 240,000 |
| | | 法人税等 | 280,000 | | 未払法人税等 | 280,000 |

問 17. 問 13 の当期純利益額に対し、問 16 の法人税等を除いた費用の総額は 9,350,000 円であった。収益総額の金額として、次の (A) ～ (D) (単位：円) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 17 にマークしなさい。

- (A) 7,850,000 (B) 8,370,000 (C) 10,330,000 (D) 10,850,000

【IV】 次の決算整理前残高試算表と決算整理事項にもとづいて貸借対照表と損益計算書を作成した場合に、以下の問 18 から問 27 に答えなさい。なお、会計期間は X1 年 4 月 1 日から X2 年 3 月 31 日である。

[決算整理前残高試算表]

決 算 整 理 前 残 高 試 算 表 (単位：円)		
借 方	勘 定 科 目	貸 方
279,200	現 金	
	現 金 過 不 足	2,200
431,300	当 座 預 金	
118,000	受 取 手 形	
156,000	売 掛 金	
99,700	繰 越 商 品	
14,200	仮 払 法 人 税 等	
720,000	備 品	
	支 払 手 形	123,000
	買 掛 金	195,000
	貸 倒 引 当 金	9,500
	減 価 償 却 累 計 額	180,000
	借 入 金	400,000
	資 本 金	500,000
	資 本 準 備 金	200,000
	利 益 準 備 金	100,000
	繰 越 利 益 剰 余 金	40,100
	売 上	917,500
	受 取 手 数 料	286,700
	受 取 利 息	194,200
657,800	仕 入	
269,300	給 料	
90,100	通 信 費	
60,600	消 耗 品 費	
252,000	保 険 料	
3,148,200		3,148,200

[決算整理事項]

- (1) 現金過不足の残高は原因が不明のため、適切な勘定に振り替える。
- (2) 期末商品棚卸高は、109,300 円である。
- (3) 受取手形と売掛金の期末残高に対して、5%の貸倒れを見積もる。なお、貸倒引当金の設定は、差額補充法による。
- (4) 備品は、定額法により減価償却を行う。残存価額はゼロ、耐用年数は8年である。
- (5) 消耗品費の未使用高は、17,400 円である。
- (6) 保険料は、X1 年 8 月 1 日に 1 年分を前払いしている。
- (7) 借入金は、X1 年 11 月 1 日に借入期間 3 年、年利率 4.5%で借り入れたものであり、利息は元金とともに返済時に支払うこととなっている。なお、利息の計算は月割りとする。
- (8) 当期の法人税、住民税及び事業税は、29,500 円と確定した。なお、当期に中間申告を行っている。

貸 借 対 照 表

X2 年 3 月 31 日

(単位：円)

資 産	金 額	負債及び純資産	金 額
現 金	()	支 払 手 形	()
当 座 預 金	()	買 掛 金	()
受 取 手 形	()	未 払 費 用	()
貸 倒 引 当 金	() ()	未 払 法 人 税 等	(ウ)
売 掛 金	()	借 入 金	()
貸 倒 引 当 金	() (ア)	資 本 金	()
商 品	()	資 本 準 備 金	()
消 耗 品	()	利 益 準 備 金	()
前 払 費 用	()	繰越利益剰余金	(エ)
備 品	()		
減価償却累計額	() (イ)		
	()		(オ)

損 益 計 算 書

X1 年 4 月 1 日から X2 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

費 用	金 額	収 益	金 額
売 上 原 価	(カ)	売 上 高	()
給 料	()	受 取 手 数 料	()
通 信 費	()	受 取 利 息	()
消 耗 品 費	()	()	()
保 険 料	(キ)		
貸 倒 引 当 金 繰 入	()		
減 価 償 却 費	()		
支 払 利 息	(ク)		
法 人 税 等	()		
当 期 純 利 益	(ケ)		
	()		(コ)

問 18. 貸借対照表のアに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 18 にマークしなさい。

(A) 148,200 (B) 250,800 (C) 264,500 (D) 260,300

問 19. 貸借対照表のイに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 19 にマークしなさい。

(A) 450,000 (B) 558,000 (C) 468,000 (D) 639,000

問 20. 貸借対照表のウに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 20 にマークしなさい。

(A) 30,100 (B) 43,700 (C) 15,300 (D) 29,500

問 21. 貸借対照表のエに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 21 にマークしなさい。

(A) 90,700 (B) 133,000 (C) 147,200 (D) 119,900

問 22. 貸借対照表のオに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 22 にマークしなさい。

(A) 1,598,900 (B) 1,688,000 (C) 1,643,200 (D) 1,631,500

問 23. 損益計算書のカに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 23 にマークしなさい。

(A) 866,800 (B) 648,200 (C) 667,400 (D) 757,500

問 24. 損益計算書のキに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 24 にマークしなさい。

(A) 168,000 (B) 147,000 (C) 84,000 (D) 105,000

問 25. 損益計算書のクに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 25 にマークしなさい。

(A) 3,000 (B) 18,000 (C) 7,500 (D) 10,500

問 26. 損益計算書のケに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 26 にマークしなさい。

(A) 61,800 (B) 50,600 (C) 74,900 (D) 73,800

問 27. 損益計算書のコに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 27 にマークしなさい。

(A) 1,341,000 (B) 1,398,400 (C) 1,371,100 (D) 1,400,600

【V】コンピュータを利用して簿記上の処理をおこなうことについて、以下の問 28 から問 30 に答えなさい。

問 28. コンピュータを利用することによって必要がなくなる手作業による処理として、次の（A）～（D）より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 28 にマークしなさい。

- | | |
|-----------|-------------------|
| （A）仕訳の入力 | （B）仕訳帳から総勘定元帳への転記 |
| （C）補助簿の出力 | （D）勘定科目の登録 |

問 29. コンピュータを利用する会計処理の手続きとして、次の（A）～（D）より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 29 にマークしなさい。

- | | |
|---------------|--------------|
| （A）残高試算表の出力 | （B）仕訳帳の読み取り |
| （C）総勘定元帳の読み取り | （D）レシート画像の出力 |

問 30. コンピュータを利用する会計処理で注意すべき点として、次の（A）～（D）より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 30 にマークしなさい。

- | | |
|----------------|----------|
| （A）いろいろな形式での出力 | （B）処理の速度 |
| （C）処理するデータの量 | （D）入力ミス |